

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 広島県 】

1 実践テーマ	【 I II III IV V 】
2 実施対象者	福山市立東小学校 全校児童323人
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（体育・生活・道徳・総合的な学習の時間） (2) 地域における活動 ① イベント名（東学区老人会スポーツ大会）
4 目 標 (ねらい)	オリンピック・パラリンピック教育を通して、児童一人一人が持っている価値観（スポーツの価値、共生社会の実現、多様性の尊重、おもてなしの心など）を広げる。
5 取組内容	1年生 ＜道徳（I・V）＞ - 世界の文化を体験するために、世界各国のあいさつを学び、友達同士で交流した。 ＜体育（V）＞ - 投の運動遊び・跳び箱遊びで「する人」「支える人(アドバイスする)」に分かれて学習した。 ＜生活（II）＞ - 色や形見つけて、秋のフェスティバルを下級生が楽しむための内容や方法を考えた。 ＜道徳（I・II）＞ - オリンピック・パラリンピックを教材にし、他国の人々と進んで親しもうとする態度を育成した。 2年生 ＜体育（I・V）＞ - 各単元で「する」「見る」「支える」の立場を子ども達と考え、学年・学級集団の中で、運動を経験することと、アドバイス・教え合いをくり返し行った。個の成長を全体の喜びとして価値付けた。 - 写真や映像を使って、器械運動等、トップアスリートの技を知る機会を設けた。 ＜道徳（IV）＞ 「タヒチからの友達」…言葉が通じなくても、互いの文化や郷土への興味・関心をもとに、遊びやスポーツを通じて交流することの素晴らしさを学んだ。

	3年生 <体育（V）> ・NHK オンラインで体育実技の鑑賞をした。 ・見学の児童が、試技者の動きを観察し、名人を発表した。 <学活（I・V）> ・レクで新しい球技をつくった。 ・オリンピックの歴史を学んだ。 4年生 <体育（I・V）> ・マット運動の単元で「東小オリンピック」を開催した。 ・自分にできる技（開脚前転・開脚後転・前転・後転）を3つ選び演技をした。男子の部・女子の部で美しい演技をした3名を表彰した。練習では、班ごとに互いの技を見合い、アドバイスをを行った。 5年生 <総合的な学習の時間（I・II・III）> ・オリンピック・パラリンピック競技について映像を見たり、インターネットを使って調べたりした。 ・みんなが楽しめるスポーツを考え、老人会でプレゼンテーションをした。選ばれたスポーツは後日行われる老人会スポーツ大会の種目として採用された。 ・東学区老人会スポーツ大会に準備・運営の立場として参加し、支える側を体験した。 6年生 <総合的な学習の時間（II・V）> ・「真の国際人とは？」ということについて学んだ。 ・デリゲイツ(外国から来る子ども)との交流に向け、相手の国の文化等について調べた。 ・交流会当日は、ミニ運動会、食事会、折り紙などで文化交流をした。 ・学んだことをまとめ、市内の発表会に参加した。 全校 <オリンピック来校（I・V）> ・オリンピックの星奈津美さんの講演を聞いた。「ライバルは自分。1日の終わりに後悔しない過ごし方をすることが大切」ということを学んだ。
6 主な成果	（I） ・オリンピック・パラリンピックに対する関心が高まった。現地に行きたい、テレビで応援したいという児童が多くいた（90%）。 ・いろいろな人の支えによって大会が成り立っていることが分かった。 （II） ・自分がどうしたいと考える前に、相手のことを知り、どんなことが喜ばれるのかを考えることが大切だと分かった。 （III） ・自分たちには簡単にできることでも、おじいちゃん、おばあちゃんにはできないことがたくさんあることがわかった。お年寄りのことを考える良い機会となった。 ・老人会スポーツ大会では、ご老人に対して優しく接する姿を多く見ることができた。 （IV）

	・他国への文化へ興味を持つきっかけとなった。 ・インドネシアやタイなどの食文化などを調べることで、日本との共通点・相違点に気付き、他文化を受け入れることが出来た。 ・交流では、一緒に体を動かしたり、ジェスチャーを加えながら伝えたりすることで、言葉はあまり通じなくても気持ちが通じ合えることを実感できた子が多くいた。 (V) ・ルールを守って、友達と協力しながらゲームに取り組むことができた。 ・得意・苦手に関係なく、みんなで運動を「楽しむ」ことが出来た。 ・できないことに対して、自分から「取り組みたい」、「もっとやりたい」という意欲を持つことが出来た。 ・「来年は〇〇ができるようになりたい。」という継続的な目標を持つことができた。
7実践において工夫した点 (事業の特色)	・昨年度までは体育科を中心にオリンピック・パラリンピック教育を進め、スポーツの意義や価値について研究してきたが、今年度は共生社会の実現、多様性の尊重、おもてなしの心などの価値観を児童一人一人が広げたり、深めたりするための取組を行った。
8主な課題等	・オリンピック・パラリンピック教育のねらいや取組について、教員の理解は深まってきている実感があるが、児童はどのようなことがオリンピック・パラリンピックにつながるのか意識しづらいところがある。
9来年度以降の実践について	・現在の取組を、どう継続・改善していくかを考える。 ・計画的に実践できるよう、年度末年度始めに年間計画に位置づける。